

### 学部企画報告 いま宮澤芳重を考える

SJ委員会 / 高柳, 俊男 / 大西, 亮

---

(出版者 / Publisher)

法政大学国際文化学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

異文化 / 異文化

(巻 / Volume)

15

(開始ページ / Start Page)

15

(終了ページ / End Page)

17

(発行年 / Year)

2014-04

[学部企画報告]

## いま宮澤芳重を考える

S J 委員会（大西、高柳）

法政大学国際文化学部では、2012年度から留学生を主対象に、長野県飯田・下伊那地方で夏休みの「S J 国内研修」(S J : Study Japan) を実施している。日本を東京だけから眺めるのではなく、多面的・重層的に捉える目を養うことが目的である。

その飯田・下伊那出身のユニークな人物に、生田村（現、松川町）生まれの宮澤芳重（みやざわ・よしじゅう; 1898年～1970年）がいる。貧しさのため進学できなかった宮澤は、郷土である飯田に「郷立大学」をつくる夢を抱き、東京でニコヨンなどの肉体労働をして稼いだお金の大半を、飯田市立図書館や県立飯田高校に送金した。志半ばにして亡くなったが、没後、地元の人々は彼を讃える「芳重地蔵」を建て、またNHKは番組「地蔵になった男」（1973年）を制作して、その清貧の生涯を振り返った。

それから40年。飯田でフィールドスタディをする全国の大学をネットワーク化し、「学輪IIDA」というユニークな大学連携組織が立ち上がりつつあるが、かつて飯田に大学をつくろうと奔走した宮澤芳重のことは、地元の飯田・下伊那でも忘れられつつある。

また一方では、宮澤の寄付金などで購入されたもと飯田高校の天体望遠鏡を保管し、学校協の「芳重地蔵」を大事にしてきた松川東小学校が、近年の児童数の減少により2014年度末で閉校、2015年度から松川中央小学校に統合する方針が決定した。

そうした時期に、40年前のこのNHKの番組を觀賞し、ゆかりの方々のお話を伺いながら、宮澤芳重の生き方や目指したものを再度振

り返り、あわせて地域活性化の課題を考えることには現在の意義があろうと思い、開催の運びとなった。

当日は、学部内の一般参加者は1名のみだったが、「S J 国内研修」を準備するなかで関係がうまれた在京飯田高校同窓会有志の方々をはじめ約50名が参加し、また松川町に住む宮澤芳重係累の方や宮澤と同郷のジャーナリスト本多勝一氏も駆けつけてくださり、いい交流の場となった。

なお、このイベントについては別掲のように、飯田市で発行されている『南信州新聞』で、事前事後にわたって2度報道があった。これらが契機となり、地元でも忘れ去られつつあった宮澤芳重を再度顕彰する動きが高まり、「地蔵になった男」の飯田市および松川町上映に向けた計画がいま進みつつある。また、松川東小学校あと利用の問題では、現在の松川町長が法政大学の出身ということもあり、法政側にいろいろ相談を持ちかけられてもいる。

地方での研修というと、現地から協力や支援を一方的にいただくことになりがちだが、同時に現地に何らかの形で還元し、双方向的な関係を築いていくことが大事であろう。その意味で、「S J 国内研修」対象地への理解を深めるだけでなく、現地ゆかりの方々との協働により、発展的な関係構築への要素を含んだイベントとなり、有意義だった。

- 
- 日 時：2013年7月6日（土） 15:00～18:00
  - 場 所：法政大学ポアソナードタワー6階 0610教室
  - 内 容：①NHK「地蔵になった男」上映（1973年；約30分）
    - ②関係者による座談会（敬称略）
      - ・下澤勝井（評伝『人間 宮沢芳重—その反俗の生涯』共同執筆者）
      - ・小塩立吉（小塩完次記念資料館。叔父の小塩完次が宮澤芳重と親交あり）
      - ・山崎範子（谷根千工房。地域雑誌『谷中根津千駄木』発行人。宮澤芳重について41号に執筆）
-

